田園都市から文化都市へ

9月定例市議会

市長、議員にとって任期最後の九月定例市議会は九月十六日開会、二十四日までの九日間の日程で開かれました。提案された議案は、五十八年度一般会計補正予算（九億六千百九十八万一千円）など十一件で、いずれも可決（児童福祉費の中の学童保育建築資材費六十万円を修正＝予備費へ）されました。

小笠原市長は二期目（四年間）の総括として各議案の提案理由の説明に先立ち所信を表明、これに対し九人の議員が市長の政治姿勢や財政問題について、執行部の考えをただしました。

所信表明（要旨）

長年の懸案でありました空港は、本来十二月十六日からジェット機が就航することになりました。四国横断自動車道は本線が着工され、南国インターチェンジも本工事を目前に控え、工事用道路等の建設が急速に進んでいます。また市内の交通体系を大きく変える東バイパス、黒潮ライン、広域農道も着々と進んでいます。

これら交通輸送網の飛躍的な充実を基軸として本市が将来、県下の産業、経済界において中核都市的役割を担う時代が来ることも夢ではありません。

高知医科大学の充実、市民待望の県立普通高校や県立歴史民俗資料館が本市に建設される見込みで、文化の香り高い都市づくりの諸条件も進んでいます。

このように外貌（ぼう）の変遷をたどってみますと、本市は近代的田園都市から文化都市へと力強く歩みつづけていると言えましょう。

そこで、わたしたちは次の時代の市民に対して大きな希望を抱き、今なすべき事について大きな責任を感ずるものがあります。

今後も長引く不況の中で、市民の意識の変化や多様化するニーズにこたえるために適切、かつ合理的な行政機構の整備に努めなければならないと思っています。

将来を展望すると、多くの夢を抱えておりながらも本市は概して好条件に恵まれており、一歩一歩前進しているものと考えます。

ジェット機騒音は関係機関で測定

一般質問に対する執行部の主な答弁

■ジェット機の騒音対策については、市単独の調査は難しいので、国、県、市、高知大学農学部、高知工専を交えて、騒音測定をすることになるだろう。

■空港ビルの職員は、六十～七十人程度が必要のようだ。約半分くらいは既に採用済みで、そのうち大半は本市から採用されたと聞いている。

■ジェット化で、農業の発展にも「チャンスが来た」という感じだ。各方面に働きかけ、見通しを立てていきたい。

■大湊小学校の防音対策については、十二月のジェット機就航後の状態をみて、国、県と協議していく。下田村の共同利用施設の建設は、その場所が「千屋城跡」ということで、発掘調査のため少し遅れた。建築規模は百四十八平方㍍、平屋建て（一部二階）。十月に着工、来年二月完成の予定です。

■ジェット機の優先滑走路方式（滑走路の一方が、騒音の影響が少ない地域である場合、可能な限りその方向で離着陸を行う方式）については、国、県に今後も働きかけていく。

■吾岡山の跡地利用問題については、空港周辺対策の大きな課題として対処していく。

■比江山は歴史民俗資料館（歴民館）や中小企業大学校の候補に挙がっていましたが、歴民館は岡豊山に決まり、中小企業大学校の誘致もほとんど見込みがありません。

財政再建のためにも、残地処分は早急に行う必要があり、地域住民の理解を得て有利な方法で売却できるよう、最善の努力をしていきたい。

■五十九年度の学校の整備計画については、香長中の特別教室、稲生小の校舎と給食棟、十市小の校舎と給食棟となっている。このほか、大篠小の体育館、大湊小の防音工事なども検討している。

■歴民館は、ようやく岡豊山に決定された。計画では五千～六千平方㍍の建物で、すべての年代にわたる資料館にするということです。

内容については、県の方でもまだ明らかにされていませんが、南国市としても積極的に意見を申し入れていきたい。

■現在、大きな問題となっている青少年の非行の原因は、物質中心の社会環境の中で複雑に絡み合っています。そのため、長期的視野に立って、総合的な対策を進めていかなければなりません。

具体的には①教師と子供たちの心の触れ合いを大切にする教育②PTA、地区こん談会を通して、親子の触れ合いの大切さを訴えていく③あいさつ運動や美化運動など、地域活動に積極的に参加させることなど、推進していく。

■医大周辺（小蓮地区）の都市計画は、住民や医科大学からの要望も強く、なるべく早く着手したいが、一方で地権者の反対もあり、なかなか難しい状態です。しかし、時代に適応した都市計画の必要性は認めているので、なんとか進ちょくさせたい。

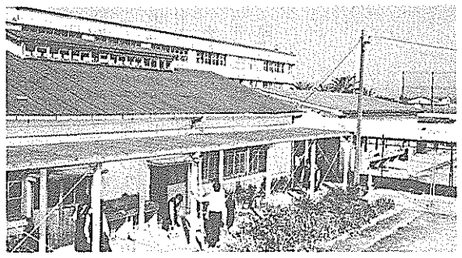
■後免町駅―岡豊高校のバス運行については、四月開校に対応できるよう、医科大学への乗り入れも含めて土電が計画しているようだ。

■第三セクターでの阿佐線建設は、通勤・通学の足の確保や東部開発のために、その必要性は認めるが、経営上の問題などもあり、本市としては無条件の賛成はできない。

■縦て割り行政の欠陥については、執行部で対応策を検討する。行政の総合窓口といったものについても早期に検討していきたい。

■入札制度の改善については、すでに審議会を設置し、大勢の職員が論議して指名業者等を決定している。安易な契約行為などはしていない。

■文化センターは基本計画の策定に入った段階で、建築の規模など、どんなものにするか研究している。



改築される香長中の木造の技術棟

臨時市議会

稲生小全面改築

大篠小、香長中の特別教室も

臨時市議会が十月一日開かれ、「稲生・大篠両小学校の校舎改築工事と香長中学校の校舎増改築工事の請負契約の締結について」の三議案が審議され、それぞれ可決されました。

これを受けて、三校は四日にそれぞれ起工式を行い、増改築工事が始まりました。

▼稲生小学校＝栄枝利実校長、生徒数二百十七人

稲生小は木造二階建ての校舎が老朽しているため、本年度から二ヵ年の継続事業として全面改築をするもの。

新校舎は鉄筋コンクリート三階建て、延べ千九百九十四平方㍍で、普通教室六、家庭科室、図工室、理科室、音楽室、図書室など。総事業費は二億七千四百万円（造成工事費を含む）。完成は五十九年七月末の予定。

▼大篠小学校＝幾井幸雄校長、生徒数九百二十七人

大篠小はジェット機の騒音対策および危険校舎改築の三期目の工事で、鉄筋コンクリート三階建て延べ九百三平方㍍。一階は音楽室と家庭科室、二階は図書室と理科室、三階は図工室で、すべて特別教室となっている。総事業費は一億四千三百万円で、完成は五十九年三月末の予定。

同校はこの工事が完成すると、全校舎の改築が完了することになり、後は体育館の建築を残すのみとなります。

▼香長中学校＝耕崎稔校長、生徒数六百八人

香長中はジェット機の騒音対策として五十六、七年度に校舎の防音工事が行われましたが、これに引続き、今年度から二ヵ年の継続事業で鉄筋コンクリート三階建て、延べ六百八十七平方㍍の技術棟を増改築するもの。一階は金工室、二階は家庭科調理室、三階は音楽室となっている。総事業費は一億八百万円で、完成は五十九年三月末の予定。

全面改築が決った木造二階建ての稲生小校舎